

## 静岡文化芸大生4人 本を出版



④「春野のむかし語り」を刊行した静岡文化芸大の学生たち。浜松市役所で

# 春野の民話 伝えたい

静岡文化芸術大（浜松市中央区）の学生4人が、同市天竜区春野町に伝わる民話をまとめた「春野のむかし語り」を、三弥井書店（東京）から刊行した。1年間かけて地域住民からの聞き取り調査に取り組んだ学生は「記録に残さないと廃れてしまう話を伝えられたのは意味があった」と振り返る。

（小林颯平）

民話の採録に携わったのは、いずれも4年の小鍋未羽さん（21）＝島田市出身、佐藤菜々美さん（21）＝函南町出身、望月花鈴さん（21）＝静岡市駿河区出身、藤井七海さん（21）＝愛知県田原市出身の4人。昨年5月から23回にわたって春野町の気田や砂川、大時、胡桃平地区を訪れ、高齢者83人から270の話聞いた。本には厳選した84

## 1年かけ聞き取り 84話を厳選

話を掲載した。

「白倉膏薬」は、大時地区から西に1キロほど離れ、現在は廃村となっている小集落で製造されていた薬にまつわる言い伝え。薬は傷やあかぎれに効能があるとされていたが製造法は門外不出とされており、1999年に編さんされた「春野町史」にも記録がない。現在の町民でも薬について知る人はごくわずか。採録した小鍋さんは「膏薬を作っていた家の場所が分かった時は、本当にあるんだと驚いた」と話す。

他にも大時地区に伝わる「女郎松」の話や、地域の集まりで大蛇がおわんを貸してくれたという伝説なども紹介。全ての民話は話者の語り、口調をそのまま字に起こしており、「あるじゃんね」「行っちゃったたら」など遠州の方言も楽しめる。

学生たちは市役所を訪れ、中野祐介市長に完成した本を手渡した。望月さんは「春野町の人たちに、自らが住む地域のことを改めて知ってほしい」と話した。

採録調査は、伝承文学のゼミを開講する二本松康宏教授が2014年度から実施。毎年、天竜区など各地に伝わる民話を本にまとめており、出版は今回で10冊目となった。

A5判、176ページ、税別1200円。市内の書店などで販売中。